

文部時報

第五百五十號 目次

卷頭(明治天皇御製三首).....一

體育運動主事會議に於ける訓示.....文部大臣 平生釵三郎.....二

教科書の挿畫.....文部省圖書監修官 大岡保三.....四

文部省視學委員復命書抄

復命書

教育部	文部省視學委員東京女子高等師範學校教授	下田次郎	八
國語	文部省視學委員松山高等學校教授	井手淳二郎	九
漢文	文部省視學委員廣島高等學校教授	小西兵太郎	三

文部省直轄學校の特色

東京美術學校の現況	東京美術學校校長 和田英作	一七
名古屋高等工業學校の特色	名古屋高等工業學校校長 土屋純一	二三
我が校の特色	東京高等蠶絲學校長事務取扱教授 岩淵平介	二四
東京商科大学附屬商業教員養成所	商業教員養成所主事 吉田良三	二六

農山漁村に於ける學校の實際

漁村小學校の訓練の實際.....静岡縣駿東郡靜浦尋常高等小學校校長 近藤佐十.....二八

訓令.....文部省訓令第九號(地方學校管轄職員制ニ依ル定員中改正)・同第十號(地方社會教育職員制ニ依ル定員中改正)・同第十一號(昭和十一年度文部省主管歳入豫算科目)・同第十二號(昭和十一年度文部省所管官立大學歳入歳出豫算科目)・同第十三號(昭和十一年度文部省所管學校及圖書館歳入歳出豫算科目)・同第十四號(昭和十一年度文部省所管官立大學歳入歳出豫算科目表中追加)・同第十五號(昭和十一年度文部省所管學校及圖書館歳入歳出豫算科目表中追加).....三五

告示

告示.....文部省告示第二百二十一號(洮安日本小學校改稱認可)・同第二百二十二號(師範學校中學校高等女學校教員無試験檢定取扱許可學校中帝國女子專門學校ノ項改正)・同第二百二十三號(福岡縣田川商工實務學校設置認可)・同第二百二十四號(大阪府立盲學校校位置變更認可)・同第二百二十五號(師範學校中學校高等女學校教員無試験檢定許可學校中(大谷女子專門學校追加)・同第二百二十六號(國寶指定)・同第二百二十七號(重要美術品等認定物件中資格消滅)・同第二百二十八號(埼玉縣忍町商業學校名稱變更認可)・同第二百二十九號(狹路尋常小學校恩給法指定).....三五

敍任及辭令(自昭和十一年五月一日至同五月十日公表ノ分等).....四四

彙報

内閣審議會ニ於ケル文教刷新ニ關スル審議ノ經過報告——講師囑託——學位授與認可——佛國政府招聘留學生銓衡——檢定教科用圖書——歌曲採用認可——海外視察女教員選定——中華民國教育視察團文部省訪問——義務教育費國庫負擔町村交付金決定——學齡兒童及教員數調——實業學校長認可——圖書推薦——體育運動主事會議——曹洞宗僧侶教師分限稱號令等中改正——顯本法華宗評議員制中改正——轉任——休職滿期——退職——失官——死亡.....六〇

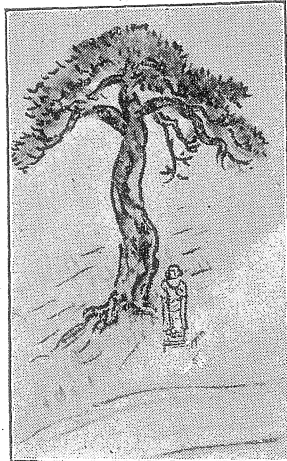


教科書の挿畫

文部省圖書監修官 大岡 保三

新讀本卷七の第五課に「からかさまつ」といふ文がある。山村の情景を描いた寫生文で、もと國語讀本に出てゐたものである。此度の挿畫は、山腹に大きな傘松が生えてゐて、此の下に地藏尊が淋しさうに立つてゐる繪である。本文が簡單なのであるから、その文意に因んで書く以上誰が書いても外に書きやうのない繪である。

最初此の挿畫を誰に書いて貰はうかと思つたのである。すると、これはH畫伯がよからうといふ事になつたので、同氏に依頼した處が、大乗氣で引受けてくれた。同氏は大きな農場を持つて居られる。そこに大きな傘松があるので、土地の人はこれをかき松農場とよんでゐる。そんな關係から快く引受けられ同氏は、早速その松を寫生し之に地藏尊を配して持つて來られたのが、



て採用する事にした。そこで更によく注意してみると、松の形も悪くはないし、その下の地藏尊は殊によく出来てゐる。成程よく出来てゐるのだと思つた。併し更によく検討してゆくと、

地藏尊の前に供へた花立が一本しかない。これは可笑しい。書忘れたなと思つて、もう一本書添へて貰ふやうと頼んだ。すると、いつも溫厚で從順な同氏が、「それはどうも困ります」といつて頑強に反對された。どうも變だと思つて、その理由を聞く、其の返事はかうであつた。

「こんな山の中に、露に晒されて立つてゐる地藏尊の花立は、一本缺けて居ればこそ、淋しい趣が出て面白いのです。これを二本揃へて書いたのでは……」

私はギャフンと參つた。今更ながら同氏の苦心に敬意を表せざるを得なくなつた。

またこんな事もあつた。

それは讀本の一の巻に桃太郎の挿畫を頼んだ時の事であつた。これを書いたE畫伯は、藝術家肌の面白い人だが、又非常な凝りやで、何でもよい加減な事の出来ない人である。それであるから、繪をかくにしても、何から何まで十分得心の行くまでは決して筆を執らない。我々はその藝術的良心に對しては、十分尊敬してゐるが、實際問題として、繪の出来が遅いのではないも閉口させられる。

そこで、今度は桃太郎の繪を一年も前から頼んでおいた。ところが後から頼んだ他の畫家の繪は皆出揃つたに拘らず同氏の

挿畫は一枚も出来ない。度々催促はしたが、返事するばかりで一向出来て來ない。その内に發行の期日が愈々切迫して來たので、一日嚴談に及んだ。よく事情を聞いてみると、かうなのであつた。



同氏は一年間の餘裕のあるに委せて、先づ桃太郎に關する文獻と繪との蒐輯を始めた。さうして之を歴史的に研究したのであつた。氏の說によると、桃太郎の普通の服裝は、芝居の國姓爺の服裝から出

たものであり、力髷、陣羽織、陣太刀等巨細に見ると、何れも時代が區々であつて統一がない。桃太郎傳説が足利時代のものである、その服裝は何れも時代が前後してゐる、併し、若しこ

れを歴史的にみて適當な服装に直したとしたり、學問的にはよいかも知れないが、一向桃太郎らしい感じが起らない。どうしたものかと、實は迷つて居るのだといふ事であつた。

さうして出来上つた繪は、極めて平凡な普通一般の桃太郎でしかなかった。私は、この平凡な裏面に潛む異常な努力に人知れぬ敬意を捧げる者である。桃太郎ばかりではない。連れてゐる犬一匹も、わざわざ松屋樓上で開かれた日本犬展覽會を待構へてゐる見に行つて書いたのである。雉子の翼の裏の色が分らないといつて動物園に行き更に上野の科學博物館に行つた。文部省の者だと云つて雉子の標本を飾棚から出してもらひ、人氣の無いのを幸に、翼を擴げてみて漸く目的を達したのであつた。こんな苦心も印刷の都合で、満足な色が出ずにしまつた。

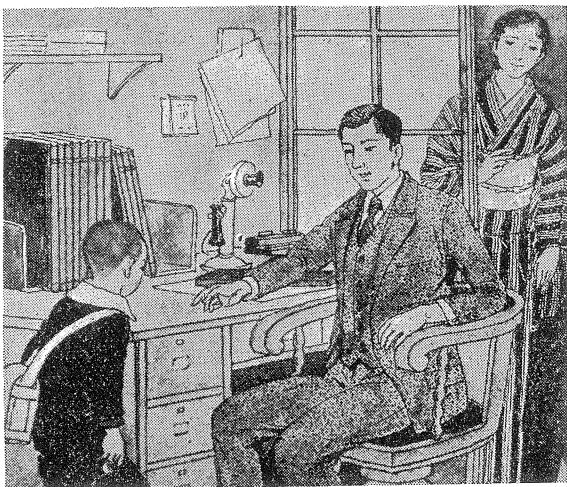
讀本の卷一にはいろいろの思出がある。

同書の二十頁に、

「太郎が學校から歸りました。おとうさん只今おかあさん只今」

といふ課がある。學校から歸つた太郎が、兩親の前で歸宅の挨拶してゐる所である。此の挿畫には實に困つたのである。元來一年生が學校から歸つて來るのは大抵十時か十一時頃である。この時刻に兩親の揃つてゐる家庭はめつたにない。若しあると

すればブルジョア一の有閑家庭か、ルンペンの家庭である。併し編纂の旨趣から云へば片親でなく、是非兩親に挨拶がさせたい。そこで適當な挿畫に困りぬいて、出来上つたのが、現行教科

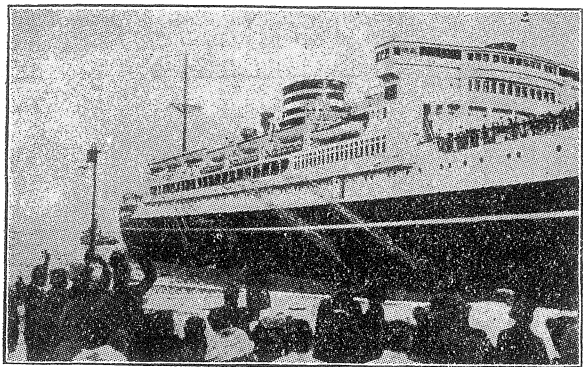


書のあの挿畫である。家庭の一部を事務所に使つてゐるやうな職業を目標に書いたのであるが、惡口屋は「これは運送屋の店頭ですか」と冷酷な痛罵を飛ばしてゐる。

こんな話は

數限りもない。畫家から直接聞いたりする機會のある場合には成程と感心もするが、さうでない限り大部分の苦心は闇から闇へ葬られてしまふ。今度の讀本には大分寫眞版を使用してゐる

が、あの寫眞の撮影が又中々厄介なものなのである。春の景色を撮らうとして、數回失敗して居る中に、何時か初夏ともなつて麥稈帽子が飛出したり白いバラソルが寫つたりする。卷七の横



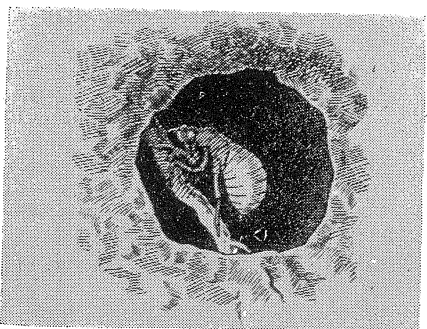
濱港の寫眞は、秩父丸の出帆を寫さうとして三度も横濱に行つた。適當な位置をきめる爲に他の舟の出帆を撮影して豫行演習を行つたのであつた。

私は最後に挿畫の見方に就て一言したい。挿畫に正確さを生命とするものと、正確さよりは寧ろ本文と相俟つて情趣を添へる爲のものとがある。

理科的標本の如きものは何處までも正確本位でゆ

かなければならぬ。卷七「油蟬の一生」の蟬の地中生活の挿畫は、わざわざ神奈川縣まで行つて、地中を掘返して實物を寫眞にとり、それを忠實に寫生したものである。此の種の挿畫は正

確を生命として作成したものである。乍併其の他のものは、必ずしも正確さのみを標準とするものではない。同じ動物を書い



ても、畫家は畫家のみた動物を書くので、必ずしも理科的に正確なものとはいへない。舟を書いても耕作の圖を書いても、畫家の見た舟、畫家の見た田園を書くのである。昔の挿畫家は人物を書いても、指が六本あつたり四本だつたりする位でなければいけないと教へたものである。先年挿

畫家協會の席上でも谷洗崖氏

からその話が出た。これは決して不正確を獎勵したのではなく、細かい部分に拘はれて最も大切な風趣を見脱さぬ教訓である。實際足の指を六本書いて氣がつかずに居た畫家があつた。不正確も程度問題で、教科書としてはなるべく正確な方がよいのであるから文部省としては相當注意は與へて居るが、畫家の立場も亦考へねばならぬ。實際教育家も、是等の實情を參酌して挿畫を最も效果的に取扱はれたい。

